

フランス美術の愉しみ～
パリに魅せられた日本の美術家たち～
黒田清輝から岡本太郎まで



19世紀後半から20世紀前半にかけてのパリは、新しい美術が次々と現れる激動の時代。
その中で悪戦苦闘しながらも、多くの日本人美術家が希望を抱き夢を
追い求めました。明治から昭和にかけての日本とパリとの関わりをたどります。

講師：柴 勤（フランス美術講師）

土曜日 14時～15時30分 全6回

受講料：12,900円

要予約 定員10名

※日本語で行います。

※受講するには、札幌アリアンス・フランセーズの生徒登録が必要です。

- 1 7月12日 洋画家たちのパリ留学事始め 黒田清輝と外光派
- 2 7月26日 ルノワールからセザンヌへ 梅原龍三郎と安井曾太郎
- 3 8月09日 日本的フォーヴィスムの形成 1930年協会の結成へ
- 4 8月30日 キュビズムが切り開く新たな世界 坂田一男と東郷青児
- 5 9月13日 狂騒のモンパルナスを舞台に “パリ豚児の群れ”
- 6 9月27日 シュルレアリスムから抽象美術へ 福沢一郎と岡本太郎

参加ご希望の方は、札幌アリアンス・フランセーズ
札幌市中央区南2条西5丁目10-2 サンワードFビル2階
Tel：011-261-2771まで。